

恵庭市理事者と町内会・自治会長との懇談会 (予算概要説明会)

4月22日(金)に恵庭市理事者・各部長と町内会長・自治会長との懇談会が開催されました。この懇談会では、恵庭市町内会連合会の主催により、町内会と市理事者・各部長の顔合わせ、市の新年度の予算概要や事業説明などのほか情報や意見交換を行っています。出席した町内会・自治会長からは、地域防災、公共施設の整備、空き家、新型コロナウイルス感染症の情報発信といった質疑が出されるなど、活発に意見交換が行われました。



自治活動研修視察

5月26日(木)に令和4年度自治活動研修視察を開催し、30名の町内会・自治会長が参加しました。北広島市に建設中の日本ハムファイターズの新球場「ボールパーク」とガーデンフェスタ北海道2022のメイン会場花の拠点「はなふる」の2ヶ所を見学しました。両研修地とも、工事着工中ということもあり、完成に向けて作業が着々と行われている様子を見ながら、担当者の方から貴重なお話を聞くことができました。



親睦交流会 (パークゴルフ)

6月17日(金)、コロナ禍において開催ができずにいた親睦交流会を4年ぶりに開催しました。当日は、あいにくの雨で一時プレーを中断するハプニングもありましたが、4コース36ホールを無事にホールアウトでき、熱戦が繰り広げられた個人部門では幸町の福本会長が優勝をかざりました。



活動研究大会

11月30日(水)に「市民意識調査から見る町内会・自治会の現状と課題」をテーマに活動研究大会を開催しました。講演では、「今後力を入れてほしいこと」や「町内会の役員について」、「非加入者に加入してもらうために行うべきこと」等の様々な観点から説明がありました。その後に行われた意見交換・情報共有では、町内会の情報発信手段としてホームページの活用方法等についての意見が活発に交わされるなど、市町連としても課題解決に向けて取り組まなければならないことを改めて考えさせられました。今後、市との検討を重ね、よりよい地域づくりに努めて参ります。



令和4年度 活動記録

R4.2.18	定期総会(書面)
R4.2.28	第1回役員会
R4.3.15	第2回役員会
R4.4.15	第3回役員会
R4.4.22	市理事者と町内会・自治会長との懇談会(予算概要説明会)
R4.5.11	第4回役員会
R4.5.26	自治活動研修視察
R4.6.17	親睦交流会(パークゴルフ)
R4.7.14	第5回役員会、セーフティハウス旗寄贈
R4.8.24	第6回役員会
R4.9.29	第7回役員会
R4.10.18	道央ブロック町内会活動研究大会
R4.11.4	第8回役員会
R4.11.25	第9回役員会
R4.11.30	活動研究大会
R4.12.20	市理事者と町内会・自治会長との懇談会



セーフティハウス・こども110番旗寄贈

恵庭市建設業協会が子どもたちの見守り活動に繋がようと2010年から行っている取組で、市内の通学路に掲示するために町内会に協力依頼がされました。

寄贈された旗は各町内会に2枚ずつ配布し、町内の目立つ場所に設置しています。



町内会・自治会活動にできることから一緒に参加してみませんか?

町内会・自治会は防災や環境美化活動など様々な分野において地域づくりに取り組んでいます。

紙面で紹介したい
“ユニークな活動をしている人”
“がんばる人”の情報を
お寄せください。

募集



令和5年の新春を迎えて

新年あけまして

おめでどうござります。

令和5年の新春を迎え、皆さまにおかれましては、本年もよき年でありますようお願い申し上げます。また、日頃より、恵庭市町内会連合会の運営にご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年度の嬉しい出来事として、コロナ禍の中、第39回全国都市緑化北海道フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」が花の拠点「はなふる」をメイン会場に開催されました。6月25日(土)～7月24日(日)の1か月の開催期間中に、このメイン会場には約34万人の方が訪れました。町内会連合会としてもイベント遂行の一助になったのではと自負しております。

近年町内会は少子高齢化の影響により、役員の担い手不足や加入率の低下等の課題を抱えており、地域課題への対応が難しくなっております。こうした中、地域まちづくりを推進するにあたり、昨年恵庭市と協働により課題解決の糸口に繋がればと「町内会・自治会に関する市民意識調査」を実施いたしました。この調査結果を基礎資料とし、皆さまと共に住みよい地域づくりに努めて参ります。

本年の干支は癸卯(みずのとう)の年です。穏やかで温厚な性質であり、また、跳躍する姿から向上・飛躍する年とされています。今年は向上・穏やかなまちづくりを目指し活動を行っていき決意ですので、ご協力お願い申し上げます。

最後に、本年が皆さまにとって健康で幸せに溢れた年でありませうご祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。



恵庭市町内会連合会会長
北林 優



「防災」

町内会事業として、
こんな活動をしています！

駒場町北町内会 防災訓練の実施について

駒場町北町内会では、6月26日(日)に駒場公園及びこまば交流館において防災訓練を実施しました。

震度6強の地震が発生したことを想定し、放送で一時避難所である駒場公園への避難を呼びかけ、参加者は安否確認票を掲示し避難を開始しました。

避難が完了した後は、防災装備品の展示・説明や消火訓練体験、避難所開設時の受付要領の確認にあわせて収容

避難所であるこまば交流館までの経路の確認も行いました。

交流館では、消防職員よりAED使用方法について説明を受け、参加者36名は半日防災について学んだことで知識の向上を図ることができたと思います。

また、日頃なかなかお会いする会員の少ない近隣の方と触れ合うことができたのも大収穫だと思いました。



島松旭町町内会 みんなで楽しく防災まつり

島松旭町町内会では、8月21日(日)にあさひ公園で「防災まつり」を約150名の参加のもと開催しました。

町内において防災事業をすることが初めての試みであったことから、大人から子供まで幅広く楽しめる防災活動を目的として計画しました。

内容は、家庭における災害時の訓練として消化訓練・チラシで紙コップ紙皿づくり、防災に関する基礎知識を学ぶことを目的とした公園内散策〇×クイズ・防災〇×クイズ、その他にも炊

き出し訓練、非常食の配給、福祉相談会や車いすの試乗・簡易担架による搬送訓練を実施し、最後に参加者全員で屋外シェイクアウト訓練を行いイベントは終了しました。

今後も毎年防災活動を継続し、自助・共助・公助の知識を深めて災害に強いまちづくりを進めていきたいと考えております。



北柏木町内会 防災さんぽ

北柏木町内会では、災害が起きた時に一人も被災者を出さないことを最大の目標とし、継続した防災意識向上のために防災事業に力を入れています。その中で、コロナ禍でも接触をできるだけ減らした活動ができるように思案を巡らせ考案した「防災さんぽ」を令和2年度より実施し、今年度も7月3日(日)に防災訓練の一端として実施しました。

この事業は、家族での防災会議を積極的にPRし、災害時における家族内での役割分担の確認を行ってもらうこと、散歩をしながら避難所(柏陽中学校)までの経路と危険個所の確認をしてもら

うというものです。ゴール箇所に指定した避難所では防災備品の展示を行い、町内会の備蓄状況について参加していただいた会員の皆さんにお伝えできたと思います。

また、10月に北海道町内会連合会主催のブロック別町内会活動研究大会において、取組事例を発表する機会をいただきました。今後、全道で「防災さんぽ」の取組をされる町内会が増えることを期待しています。



黄金北町内会

町内会再生ワークショップを開催

黄金北町内会では、ここ数年「会員の減少」「役員の高齢化となり手不足」「役員の負担増」「行政からの依頼増」など多くの課題に直面しながらも解決策を話し合う場がありませんでした。そこで今年度は役員会の会合を利用し3回のワークショップを行いました。

ワークショップの進行は恵庭市民ファシリテーター組織の「ファシラさるチーム・アジト」に依頼。事前に町内会役員へのヒアリングを行い、ワークショップの進め方を検討してもらいました。

第1回目のワークショップでは、ワークショップに慣れることと、沢山

話して楽しく終わることを目的としました。5つのグループに分かれ、話し合うテーマは「町内会の良いところ、変えた方がいいと思っているところがありますか?」として話し合いがスタート。話し合いの後に各グループから発表をもらい終了しました。

思っていた以上に町内会が必要だと感じている人が多く、沢山の良いところや課題が出てきました。また、このように自由に意見を言える場が必要だったと多くの参加者が話されていたことが印象的でした。

第2回、第3回のワークショップでは、1回目に出た課題をどのように解決できるかを話し合い、沢山のアイデ

アが生まれました。

会費を出していない人も町内会員とする考え方。やりたい人が参加するボランティア制度。町内会活動とその意義を知ってもらうための広報誌の発行やホームページの開設。SNSを利用した情報の受発信などなど、来年は出来る事から一歩ずつ進めて行く事になりました。

ワークショップは来年以降も開催し、よりよい地域づくりのために多くの人たちが参加できる町内会活動を目指します。

※「ファシリテーション」とは、会議やミーティングを円滑に進める技法のことで、その役割を担う人を「ファシリテーター」と呼びます。



「ファシラさるチーム・アジト」の打合せ



活発な意見交換が出来ました



最後はグループごとに発表

えにわ 歴史散歩

2度消えた学び舎～松園小学校～

文責：恵庭昭和史研究会
林 嘉男

私の通った松園小学校は今では恵庭市史で、その名と存在を知るのみとなりました。松園小学校は明治22年(1889年)、福本幸次郎外有志の寄付により私立松園尋常小学校として開校されました。福本幸次郎は私の曾祖父にあたります。松園の校名は萩(山口県)の士族、廻神美成(めぐりなりよしなり)初代校長によって命名、設立されました。廻神校長信奉する同郷の吉田松陰の名前から一字を拝借し松園としたと云われています。



昭和初期の松園小学校(三村名鑑)

私が入学したのは昭和16年4月。その年の12月には太平洋戦争が勃発。世の中は「欲しがりません勝までは」の時代で農村部まで戦争の波が押し寄せてくる時世でした。

家は東2線沿の上山口地区で学校までは6キロ、徒歩で通学。「よい子」「強い子」「賢い子」の教育目標通り、恵庭の中心校という存在でした。今も思い出すのは、帽子をかぶったまま、職員室に入ろうとして、男先生にストーブの横に置いてあった火

掻き棒で叩かれたことです。庇った右腕が負傷したことから、先生が家まで謝りに来ました。でも、父親が「お前がそそっかしいからだ」と、逆に叱られる始末。先生も父兄の関係も身近で地域や学校を第一に考える時代でした。

昭和20年9月21日、不慮の失火で校舎は全焼。掘り抜き井戸での散水では火は止められず、千歳や北広島から消防団が駆けつけてきてくれた時には学校はすでに跡形もなく消えてまいした。

その後、幾多の変遷を経て、昭和46年に農村地区の学校統合により、基線沿いに移転新築し統合校「松恵小学校」となりました。

82年間にわたって恵庭の中心校として、優れた人材を輩出した輝かしい歴史を持つ松園小学校を思う時、私は2度消えた学び舎を想像により、思慕することしかありません。



お話を聞かせてくれた方
福本 登志夫さん
(87歳)末広町在住
